



るるるるる



2021 年
9 月
No.885

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631
■ウェブサイト■ <https://jelc.or.jp/>
■E-mail■ jelc@jelc.or.jp
■発行人■ 李明生 koho@jelc.or.jp
■印刷人■ 精文堂印刷株式会社
■定価■ 1部40円（郵税を含む）
■振替口座■ 00190-7-71734

説教「隠されている恵み」

日本福音ルーテル大森教会牧師 竹田孝一

「汚れた霊に取りつかれた幼い娘を持つ女が、すぐにイエスのことを聞きつけ、来てその足もとにひれ伏した。」
（マルコによる福音書7:25）



が伝わってきます。

神の救いが私から失われ、無関係になつていないのか。しかし、すべての思いを捨て去り、ひたすらイエスの言葉をいただこうとしたのです。主イエス・キリストへの信頼しか自分には残っていないことを母親は試練の中で選り取ったのです。

「女が家に帰つてみると、その子は床の上に寝ており、悪霊は出てしまつていました。」（30節）

新型コロナウイルス感染症の拡大という中伊で、自分の命さえどうなるかわからない日々があり、礼拝もままならぬところで、自分は神の恵みと無関係ではないかという信仰の試練の内に私たちはいます。が、イエスのその足もとにひれ伏し、試練の内にこそ隠された神のみ言葉、恵みがあることを信頼して、「たとえ、明日世界が終わるとしても、それでも今日私はリンゴの木を植える」という今日の一步を主イエスの御心の内に歩みだしましょう。



伊藤卓奈

⑮「におい」

「キリストがわたしたちを愛して御自分を香りのよい供え物、つまり、いけにえとしてわたしたちのために神に献げてくださったように、あなたがたも愛によつて歩みなさい。」（エペソ5:2）

これは秋の匂い、これは冬の匂い。私たちは匂いのないものの匂いを感じたり、匂いがない出を運ぶべきたりします。

イエス様つて何の匂い？考えてみませんでした。だから考えてみます。

「愛の香り？」イエス様は思ひ出を思ひ出させるような決まった匂いではありません。一人ひとりが違つていいのです。今を生きているあなたに「あなたはそのまま生きていいんだよ」と優しく語りかけて下さる。それがイエス様の匂いなのかもしれません。
（日本基督教団協議会出版部 第21063H-101号）



高校生のとき、ネフローゼ症候群を発症し、長期入院を繰り返していた私の治療のために両親を心配させ、苦勞をかけさせていたことを今でも申し訳なく思っています。こどもが病氣であるということとは親には大変に辛いもので、どうしてもこどもの病氣が癒されることを願わずにはおられません。この福音書の物語の娘の

癒しを願う母の必死の求めは、私の母の必死な求めと重なってきます。しかし、この親の必死さに対してイエスの態度、言葉は私には理解できません。「娘から悪霊を追いつてくたさい」と頼んだ。イエスは言われた。『まず、子供たちに十分食べさせなければならぬ。子供たちのパンを取つて、小犬にやつてはいけません。』

（27節）とこの母親の願いを拒絶するのです。「イエスのことを聞きつけ」とはイエスの良い評判であり、福音であり、恵みの言葉であつたはずですが、しかし、恵みの言葉としての福音が、一見それとは思えないような現れかたをした。「まず、子供たちに十分食べさせなければならぬ。子供たちのパンを取つて、小犬にやつてはいけません。」と、なんと残酷な拒絶でしょう。これが試練です。試練は、自分が神から見捨てられたという疑問が起き、神の愛から遠ざけられたという関係が生じてきたとき起こるものです。

しかし、この母親はこの試練をみごと超えていくのです。母親としての、自分の子どもを癒してほしいというイエスへの願いが強ければ強いほど、イエスの拒絶はどれほど辛いものであつたでしょうか。母親は、自分がフェニキア人、異邦人であること、イエスの「子ども」でないことを

今、母親は、万事休すという試練の中にたたきかれています。しかし、なおもイエスに救いを求め、イエスにひたすら向かう母親に対して、「それほど言うなら、よろしい。」と主イエスの言葉には、母親の願いを聞きとす神の、イエスの、強い意志・氣迫

十



その人を支え、ともに生きるために
～「総合人間学」とは～

9月23日午後1時半から

YouTube で限定ライブ配信

プログラム

①開会礼拝

②シンポジウム

「ルーテルの総合人間学とは何か？」

～共生の羅針盤を求めて～

③神学生による神学校紹介

＊詳細は4面をご覧ください。



うフィンランド在住のピアノリストがいます。2002年1月のタンペレでの演奏会、最後の和音を弾き終わったところで脳溢血に倒れます。65歳以降は後遺症のため右半身不随。リハビリに励みま

左手のピアノリスト／館野泉

すが右腕は動きません。1年半ほど経った頃に米国留学中のヴァイオリニストの息子さんが「お父さん、このような楽譜を見つけたよ」と左手のためのピアノ曲をそつと傍らに置いてくれました。その時はピンときません

ちに、演奏中にステージで脳溢血に倒れ、半身不随になった。もう、演奏家としては終わりだと思った。二年半の闘病生活を経てステージに復帰したとき、自分は左手のみで演奏するピアノリストになつていた。でも、また演奏出来るということがただただ嬉しかった。嬉しくて嬉しくて、自分が左手だけで演奏しているとか、不便不自由であるとか、そのようなことは一切感じなかった。弾いているのは音楽なのである。片手であろうが両手であろうが、手が二本であろうが、そんなことはまったく問題にならない。ただ、演奏出来る曲目が少なかつたのは事実である。しかし、少なければ書いてもらえばよい。間宮芳生さんの《風のしるし》オッフェルトリウム》が邦人初めての左手の作品として生まれ、林光、吉松隆、末吉保雄、谷川賢作など多くの作曲家達がそれに続いた。：世界の各地からも作品が寄せられている。：限りなく豊かな思念、詩情、情感、夢が、そして人の心を満たし動かしてくれるものが生まれ続けている。なんと有難い

ことだろう。」(演奏生活50周年演奏会ちらしより)
詩編102編には「祈りくくじけて、主の御前に思いを注ぎ出す貧しい人の詩」とありますが、その19節は心に深く響きます。「後の世代のためにこのことは書き記されねばならない。『主を賛美するために民は創造された。』そこには苦難を味わい尽くした者だけが到達できる次元がある。主を賛美するためこの人生は与えられた！私たちが与えられた今ここを大切にしたいのです。

気づくのはどういう人たちがでしょうか。

そうしたニードがある人たちです。オンライン上に、ソーシャルメディアで教会と会話をしたがつている人たちがいたんです。この仕事も最初はパートタイムだったのですが、オンラインで牧師と対話したい人が現実にはもつとたくさんいたのです。牧師に質問して答えがほしいという要望がさらに増えていったので、とうとうスウェーデン教会はこの働きのためにフルタイムで私を任命しました。

オンラインでつながる人はどういう人たちでしょうか。

スウェーデン教会のFacebookにやって来る大半の人は55歳より上で、わずかに男性より女性のほうが多いです。InstagramとTwitterだとFacebookのような年齢差や性差はないのですが、そちらだとフォロアー(つながり続ける人)は若い世代が幾分多いように思います。

Instagramは13〜20歳より若い世代を対象に起ち上げたのですが、こちらはまだまだです。おそらく私たちが彼らの側に立つて話せていないのだと思います。50歳の人よりも20歳程度

「教会讃美歌 増補」



⑤増補1番「み使いの群れが」・増補2番「なぜ恐れるのか」

讃美歌委員会

松本義宣

(東京教会牧師)

1. 増補1番「み使いの群れが」

ルターのクリスマスの賛美歌と言えば23番「天よりくだりてうれしきおとずれ」が有名です。1534年のルター家のクリスマス、幼い子どもたちと共に歌った

め、当時よく知られていたなぞなぞ歌を下敷きに作ったといわれます。ルター作の今の旋律は1539年の歌集のものです。ベージェント形式で、子供たちも「天使」等の役割分担で歌っていたようです。

を作詞したのだと思われまます。旋律は同じものが使われたようですが、今回の増補版では、別の旋律を付しました。ドイツ福音主義教会賛美歌(EG)25番で採用された曲で、1535年のヴィッテンベルク歌集に載った民謡調の曲です。先の23番の別旋律として歌われているもので、どちらの旋律でも歌えるように訳してあります。お馴染みの23番(18番も)の方を用いてもかまわないので、ルターが、楽しいクリスマスだけでなく、悲しい中でも、み子の降誕を心に刻んだこの歌、殊に4節「罪も死も消えろ。神様が味方。悪魔

が襲つても、み子イエスが味方。」5節「み子は見捨てない。信じよう主イエスを。試練の時にも、委ねよう主イエスに。」を味わいましょう。
2. 増補2番「なぜ恐れるのか」
1541年12月12日に成立したという信頼にたる伝承がある歌です。証言者は作曲家であり、ルターの友人で協力者だったヨハン・ヴァルターです。14世紀から愛されてきたローマ・カトリックの賛歌(Hymnus)で、各節がアルファベットで始まる A solis ortu carmineの最後に当たる8、9、11と13節の Hoste Herodes

世界の教会の声

―牧師と出会える場と―

浅野直樹 Sr.(世界福音教事市ヶ谷・スオミ教会牧師)
スウェーデンのインターネット牧師②
ルーテル世界連盟(LWF)がスウェーデンのシャルロット・フルックランド牧師にインタビューした記事(2021年3月19日)の続きを紹介します。
(元の記事のURL)
<https://www.lutheranworld.org/news/swedeninternet-pastor-engages-faith-seekers-online>

―COVID-19以後
教会のソーシャルメディアは大きく変わりました。なんといつでも各教会がこれを利用するようになり、ライブ配信やFacebookに人が集まるようになりました。多くの人々が、オンラインにも自分の教会があると気づいたのだといえます。そこで私と広報担当チームは、週に1回 Facebook 上で手短かな祈りを始めたのですが、これがつながるきっかけになりました。せいぜい3〜4分程度のオンラインの祈りですが、利用者の方たちは Facebook の祈りの映像を大きなテレビに映して、ローソクをもつてきて、たぶんコーヒークップもそばに置きながら、ひとときを過ごすようです。そうすることで礼拝しているのと同じ気分になれるますからね。

パンデミックの間に寄せられる質問内容も変化しています。悩みや不安、病人や医療従事者のための祈りが増えました。(次号につづく)

パンデミックの中の教会

東海教区の取り組みから 東海教区伝道セミナー 「Zoomでベツレヘムツアー」

徳弘洋隆
(東海教区長・大垣教会・岐阜教会・掛川菊川教会・新霊山教会・知多教会牧師)

感染症対策で礼拝や集会が難しく、健康や家族構成の違いから意見の相違もあるでしょう。しかし「時が良くて悪くても宣教に励む」べく、代替プランを考えました。

海外旅行はおろか旅行も難しいですが、ふさぎ込

コロナ禍での女性会 連盟総・大会 「でねのうですたい」

中原通江
(女性会連盟24期会長・西条教会)

3年に1度の再会を楽しみにしている会員の思いにフタをして、熊本で予定されていた総・大会開催を断念する苦渋の選択をしました。第1回総会(1949年)以来初めてのことです。それに代わり、総会の部は畫面

した。

東海教区の宣教部で話題にする「ぜひ教区のプログラムとしても」となり、渡邊克博宣教部長が取りまとめや現地連絡を引き継いでくれました。

ミトリ先生が公開しているYouTubeでは、イスラエルはワクチン接種が進んでもパレスチナは進まない事、ロックダウンで観光産業が止まりパレスチナ社会が経済的に大変厳しいことが報告され、「このパンデミックが終わつたら、ぜひベツレヘムに来てください」と。しかしコロナ禍でもZoomで「訪問と交流」はできると思ったのです。

企画の全体像は、ベツレヘムについて聖書から学ぶこと、それ以降の世界史の中で何が起り今どういう状況かなどを3回シリーズで学び、10月に「訪問交流会」をします。それらを通して信仰や生き方を学びます。Zoomが難しい方は教会と一緒に参加したり、日程が合わなければYouTubeで追いかけて受講もできます。

初回までの申込者は110人程でした。期日までに申し込まれた方にはベツレヘムからお土産もありです。教区補助金があり個人負担を少なくしました。他教区の方でも適応されます。さあ、ベツレヘムに行きましょう。主が知らせてくださつたその出来事を見ようではありませんか！

視聴があり、大きな反響がありました。先生の深い見識と長年にわたる現場経験に基づく講演は、女性会にとつて多くの示唆を得るものでした。「会員が集って牧師共々会堂で聴いた」という教会も。また、「熊本までは行けないと思つていたが、家に居ながらにして大会講演が聴けて有難い」という声も寄せられました。コロナ以前には当たり前だった、集い、祈り、讚美し、メッセージを聴くこと。これら



第7次総合方策の紹介(5)

事務局長 滝田浩之

■方策本文より

2. 方策作成の意義

個々の教会とそれを束ねる教区からなる日本福音ルーテル教会が、ルター派に立つ教会としてキリストが向かわれるところへ共に向かって行くために、総合方策は以下の点から必要とされる。

①「一つの教会・キリストのからだ」としてのルーテル教会の出発点を確認し、一致して共に歩むため。

②個々の教会・教区・全体教会の方向性を示すため。ルーテル教会としての歩むべき道は、来たところと行くところを認識することによって示される。

③ポスト宗教改革500年「リフォーメーション」(再形成)する教会。神の前に在っても、社会においても完成された教会はない。神に生かされている教会として、絶えず新しくされなければならない。向かうべきところ、ふさわしく教会の使命と仕組みをリ・フォーメーションするために方策が策定される。

④グローバルな宣教を展開

するために、日本福音ルーテル教会は総会において今後はアジアを視野にいれた宣教に取り組むべく方針を承認した。これを受けて具体的な展開をはかるため。同時に、日本社会における在日外国人の抱える諸問題を学び、取り組む人々への支援と連帯を目指すため。

⑤日本社会におけるマイノリティの立場の人々の側に立つキリストに出会うことを通して、私たちの向かうべき方向を絶えず確認するため。

3. 方策の概要

第7次総合方策は、以下の標題、主題聖句、基本目標、主要課題、かつ方策前文に明記されている大前提を指針として、日本福音ルーテル教会が、日本のみならず、世界とりわけアジアの地において、キリストの体としてふさわしい宣教の器とされることを求めるものである。

期間 2022年6月から2030年5月
標題 「隣人のために一人のキリストとなる」(隣人と共にあるキリストに出会う)

主題聖句 「生きてゐるのは、もはやわたしではありません。キリストがわたし

の内に生きておられるのです」(ガラテヤ2:20)

基本目標 「教会のリ・フォーメーション(再形成)」

①「ポスト宗教改革500年」を教会のリ・フォーメーションの時とし、宣教態勢の大胆な見直しと教会の構造改革に取り組む。

②出かけて行くところでキリストと出会い、留まる

③教職と信徒による使命共同体の働きを推進する。

主要課題

①教会は人、魂の配慮の場(重要キーワード)

②教区による宣教態勢のリ・フォーメーション

③教区間・教会間の連携

④宣教共同体としてのディアコニア活動との連帯

⑤アジア宣教への取り組み、派遣プログラムの創出

⑥社会的マイノリティの問題への学びと支援

⑦安心できる教会であるためにハラスメントの問題に取り組む

⑧神学教育のリ・フォーメーション

⑨教会財務のリ・フォーメーション

⑩海外のパートナーシップ教会(協会)との交流を深める

■解説

方策の意義 概要 主要課題が確認されています。

総合方策は、「総合」ではなく「総合」の文字が使われていることにお気づきでしょうか。辞書によれば、意味に大きな違いはないということになります。過去の方策策定時においては、そこにはこだわりがあったと伝えられています。

日本福音ルーテル教会は、「ひとつの信仰、ひとつの神学校、ひとつの給与」という旗印のもとに「ひとつの教会」であると自身を認識してきました。そして同時に、「個々の教会」、「教区」、「全体教会」をもつて「ひとつの教会」であるとも理解してきました。私たちは、すでに日本福音ルーテル教会という一つの教会があることを自明のことのように感じているかもしれませんが、私たちの教会は合同教会であるという歴史的経緯があることを知っておくことは、方策を理解する上でも重要だと考えます。

市ヶ谷教会礼拝堂に釣られている十字架のモニュメントは7つの十字架が重なり合ったものになっています。私たちの教会は7つの宣教団体の合同によって生まれた教会だからです。つまり日本福音ルーテル教会が「ひとつの教会」であるという時、それは一色の「ひとつの教会」があるのではなく、多様な国の背景、また歴史的経緯を持つ多色の(カラフルな)「個々の教会」、あるいは「教区」が「日本福音ルーテル教会」という一つの旗印のもとに集められているというのです。よって「特色」、「個性」のある「個々の教会」があることが自然です。そして「二色」に塗り替えていくことが方策の目的ではないのです。先輩たちが「総合」という言葉に込めた思いもそこにあります。「ひとつの教会」としての大きな枠組み、あるいは方向性を示しつつ、「個々の教会」、「教区」の特色や個性が鮮やかにされていくために「総合方策」はあるのです。

として、小さな群れではありませんがキリストの委託を果たす群れとして成長することを「総合方策」において確認するのです。

オンライン「二日神学校」へのお誘い

石屋真実

(ルーテル学院大学学長)

今年もルーテル学院は「二日神学校」をオンラインで開催いたします。日時は、9月23日午後1時半から、配信方法は、YouTubeでの限定ライブ配信となります。テーマは、「その人を支え、ともに生きるために」『総合人間学』とは。』。

昨年、新型コロナウイルスの猛威に襲われて以来、いまだに感染防止の原則の中で、教会の礼拝も活動も大いに制限をされています。ルーテル学院でも大学、神学校ともに、学生は基本的には午後の時間だけキャンパスで授業を受けますが、オンラインでの授業も多く、またサークルなど学生活動も制限されたなかで学びを続けています。

こうした今のキャンパスの姿も知っていたからこそ含めて、何よりここに集う交わりにこそ「二日神学校」の

喜びがあることを思うと、三鷹に皆さんをお招きしたいのです。しかし、感染の状況はやはり深刻で、東京の緊急事態宣言等もいつ解除されるかわからない現実を踏まえるならば、今年も「二日神学校」はオンラインでの開催とせざるを得ないと決断するに至りました。

ルーテル学院大学が社会福祉教育を始めたのは1976年、今からちょうど45年前のこととなります。当時の間垣洋助学長は「福祉の仕事は、元来キリストがおこない、また弟子たちにこれをなすように命じた、教会の負うべき重大な使命」と受け止め、福祉分野への人材育成が神から与えられた使命としてこれを担うと言われました。もちろん、ルーテル教会が日本での宣教の始まりの時から、教会とともに福祉施設を作り、困難を持つ方々を

支える使命を担ってきた取り組みがこの言葉を裏付けます。そして、この教育を支えるものは「神の愛された人間」についての福音的理解にあるのだと思います。社会福祉、臨床心理と大学の教育研究の領域が広がる中で、対人支援の専門教育において「総合人間学」と呼ぶものが求めているところを、今年の「二日神学校」を機会に、共に問い学びたいと思っています。

開会礼拝に始まり、シンポジウム「ルーテルの総合人間学とは何か」共生の羅針盤を求めて、そして、「神学生による神学校紹介」の三つのプログラムとなります。詳細や参加の方法などは大学ホームページ、また各教会に送付されている案内をご覧ください。

皆様それぞれの参加をお待ちしております。

2021 オンライン 二日神学校

9.23(木/祝) 13:30~16:30

申込不要 YouTubeによる配信 参加費無料

当日のタイムスケジュール(予定)

開会礼拝 司会: 石屋真実 賛歌: 聖歌集 第1巻 第100番 祈り: 石屋真実	神学生による神学校紹介 司会: 石屋真実 司会: 石屋真実
シンポジウム (ルーテルの総合人間学とは何か?) 司会: 石屋真実 司会: 石屋真実	神学校紹介 司会: 石屋真実 司会: 石屋真実

日本ルーテル神学校 ルーテル学院大学